

第1号

発行

小松同窓会本部

〒923 小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校校内

編集人 宮崎 榮

小松同窓会 会報

青春とは人生の
ある期間ではなくて
心の持ち方をいう。
青春とは人生の
深い泉の清新さをいう。

(サムエル・ウルマン)

青春の追想

平成二年度同窓会新入会員が第41回卒業記念として、母校に「北村喜八文学碑」を寄贈した。記念館(旧中学校舎)前に建てられた碑(写真参照)には次の三首の歌が刻まれている。

北の国ふるさとの母校今ころは

晩秋の陽に輝きてあらむ

遠き日の思いの中に生きてある

校舎にまさる館はあらず

天守台草芽ぐむ頃の卒業の

感傷いまも胸にのこれり

これらの歌は創立六十周年記念同窓会全国大会(昭和34年10月)に招待された北村喜八氏の、次のような欠席を詫びた手紙に添えられていたものである。「四十余年前のわが青少年時代を形成せし母校の今日の隆盛を見るは悦びにたえず、今菊花薫る佳き季節に創立六十周年を記念して祝賀の催しありと言う。われ病床にありて参ずる能わざれば、ここに追憶の情を歌に託して寄す」氏は、その翌35年12月に肺癌のため死去された。歌碑の背面には、氏の略歴が次のように刻まれている。

「北村喜八 演出家、翻訳家、演劇

研究者。明治三十一年(一八九八)、小松市大川町生まれ、小松中学、四高、東大英文科卒業。築地小劇場創立に参加、数多くの欧米戯曲を翻訳演出にも携わる。後、劇団築地小劇場副主宰、芸術小劇場副主宰。戦後は国際ペン大会日本代表、国際演劇協会センター初代理事長となる」

同窓生にとって、北村氏は演劇家としてよりも、校歌の作詞者として知られている。旧中学校歌は、同窓会東京支部の白峰会の発案によるもので作曲も同窓生前坂重太郎氏(中学6回)による。大正十四年十月、創立二十五周年記念日に発表された。現在歌われている高校の校歌も北村氏の作詞である。

なお、氏の著作——戯曲、翻訳、評論など百冊余りの書籍が夫人村瀬幸子氏(俳優座)によって寄贈され、昭和六十一年八月、小松高校図書館に「北村喜八文庫」が設置された。(氏は中学15回)



(撮影) 五十嵐一雄 (中学35回)

記念館と文学碑

発刊に当りて

小松同窓会長 仲井 信雄

『青雲の小径』の桜の葉っぱが鈍色の空を突くように伸びている枯枝を残して散ってしまいました。漸く冬の到来です。炭酸ガスやフロンガスの異常発生が招いた暖冬が数年続いています。それでも北陸の冬は空を灰色にし、木枯して落葉の旋風を巻き起し、冬を背景にした犬の遠吠や電線の唸りが、人の心にもわびしさを訴えています。

小松同窓会九十周年記念の祝宴のざわめきがまだ脳のどこかに残っていますが、もう一年余りが過ぎ去ってしまいました。そしてもう百周年に向けて胎動が始まりました。全国に散らばっていられる同窓生をネットワークで結びたいと言う同窓会本部の願いと、母校や同窓会本部に関する新たな情報を得たいと言う全国の同窓生の希望が、原始的な形ではありますが、同窓会報の発行としてやっと結実しました。そしてこの種付には、関西小松同窓会鈴木忠夫会長の力が、与って大きかったことを一つの情報としてお知らせします。

この会報にはまだ名前はありませんし、編集方向も決っていません。「これはみんなして作るものだし、みんなが読みたくなるものにした」と言う宮崎榮編集長の言葉が、羅針盤のようにその方向性を示しています。長続きして愛読されるよう会報の出現をお祝いし、それが大きく成長するよう心から乞い願うのであります。(中学42回)

母校

校長 井口 哲郎

先年、仲井会長と一緒に亀淵迪氏（中学42回卒、筑波大学教授）が本校を訪ねられた。校長室の飾り棚の中の中谷宇吉郎博士の色紙を眺めながら氏は、「私の先生のものがないのは寂しいな」ともらされた。

亀淵氏の先生は、中谷宇吉郎博士を慕って北海道大学へ進み、人工雪の結晶をつくる研究を手伝い、後に宇宙線の研究で世界的な業績をあげられた関戸弥太郎博士（中学26回卒）である。

亀淵氏の意を汲んで、小松にお住いの関戸博士の実妹、小林清子さん（県女20回卒、平成二年七月没）に御相談した。間もなく、博士の息子さんから、写真数葉、英文の研究書「EARLY HISTORY OF COSMIC RAY STUDIES」そして、「歌集 旅の小窓」が寄せられた。

歌集の「はしがき」には、この歌はもともと私の備忘録で、作品という程のもの

のではありません。しかしこのまましまっておくのは淋しくなってしまうので本にします。説明も不足ですが、一首か二首でもわかって頂けるものがあれば幸いです。

（昭和五十一年七月）とあって、八八二首の短歌が収められている。

母校を詠んだ歌に、いそがしく子を案内して天守台も思ひ出こめつ遠く眺めつ（昭和49年5月）というのがある。

博士の、天守台下の母校の思い出は何であったのだろうか。「理科のうちせめて物理だけなりと大切にせむと独り定めぬ」と、物理の世界を指したことが、また、「朝な朝な始業の前のバック台に力の限り励みたる日々」と、全国大会に向かっての苦しかったボート練習のこと（いづれも中学時代の歌）だろうか。

青春は、思い出の中だけにしか残らないかも知れない。しかし、その思い出を育んだ母校は、現に存在する。私は、同窓生の人たちの美しい思い出を損わないような母校——小松高校でありたいと願っている。（高校3回）

全国の支部活動状況

関東同窓会の現況

関東会長 本谷 勇

私達の小松高校関東同窓会は、昭和五四年九月、緑りの帝国ホテルに三百名近い同窓生を集めて誕生いたしました。以来、三年ごとの総会開催を重ね、本年六月一日には第五回総会を同じ帝国ホテルで開く予定になっており、当日は、井口校長先生、仲井同窓会長ほかのご臨席のもと、関東在住者数千名のうち少なくとも五百名ぐらゐが出席して、天守台下でのニキビ時代をワレ・ウラ言葉で大いに語り合いたいと思っています。

東京では、小松中学と小松高女の両先輩同窓会が三〇年以上も前から毎年のように総会を開きその結束を誇っておられ、三年ごとに高校会にもご出席をお願いし、お叱りやら励ましの言葉を頂戴しているような次第です。（中学46回）

小松は個待つ、困ったではない

関西小松同窓会長 鈴木忠夫

いよいよ同窓会報が発刊されました。九〇年代同窓会発

のが真相なのです。

幹事各位のアンケート結果でも、総会の隔年開催を希望が五九%、会長、副会長、担当幹事は全幹事から選ぶのがよいという意見が四〇%。我々の同窓会ではないか、やるなら、もっともっと、かっちりやろうぜ」という熱い思いが溢れているように思われてなりません。そのためにも、会則の変更、役員幹事の若返りなど、幹事会の熱烈な検討が緊急不可欠の課題になってきています。

東海支部の発足

東海小松同窓会長 西部英次郎

此の度同窓会々報ご創刊、お目出度く存じます。今後は

会報により同窓会の動向、会員の皆様の様子が拝見出来るようになりますことは大変喜ばしいことで誠に感謝しております。東海小松同窓会が発足しましたのは平成元年十一月十一日です。その節は仲井同窓会長はじめ橋本前校長や東京・大阪の会長のご臨席を仰ぎ盛大に発会式を行うことが出来ました。関係各位には色々と大変お世話になり、改めて紙上をおかりして深く感

謝申し上げます。発足に際しましては、準備委員会の設立当初から松下精工の柴田普作ご夫妻には多大なご尽力を頂き唯々頭の下る思いです。大阪同窓会の鈴木忠夫会長のご助言により柴田さんから呼びかけがあり準備委員会が発足しました。その時初めて当地区に在住される同窓の名簿を拝見し四百数名のメンバーがおられることを知り改めて驚きました。準備委員の皆様のご努力が実を結び当地区にも同窓会が発足しましたことは大変喜ばしいことです。

平成元年十一月十一日は奇しくも「アゲつぐめです。何事も1から始まります。当会も1から始まりとんどん大きく成長し年々同窓の輪、人の和を拡げて行く決心です。何分にも生れたばかりの同窓会で、本部をはじめ各地の先輩同窓会のご支援ご助言を頂きたく、よろしくお願い致します。

早いもので発足以来やがて一年になろうとしています。この間小生の努力不十分で大した動きがなく会員の皆さんに申訳なく思っております。幸に当地区の県人会では十一月六日に「県人の集い」が計

画され、県人会長の依頼で各学校の同窓会会長が参集し、協力することになりました。以来県人の集いに並行して「同窓会の集い」を行うことになりました。創刊号が出る頃には必ずや盛大な集いになると思えます。(高校2回)

小松中学校と私

金沢支部長 伊東清雄

私は小松中学校に昭和四年四月入学し、同九年三月卒業した。あたかも昭和二年の世界的金融恐慌に続く不況の頃。このため中退者が多く一五〇名の入学者で卒業したのは九〇名位であった。

在学中の主な出来事は五年三月橋北の大火、六年九月満州事変の勃発、七年第一次上海事変に郷土部隊の出征、同年十月今度は橋南の大火と日本にとっても小松にとっても不況、戦争、二度の大災害と世情騒然とした時代であった。

しかしそんな世情にも拘わらず、中学生は他日に備えて本来の勉学に勤しめという風であった。当時、校訓として次の五訓の励行が仕付けられ、これは主として生徒監、配属将校、助教によって推進された。

五訓とは①質実剛健②服装の端正③動作の敏活④言語の明瞭⑤敬礼の確実の五項。ヤンチャで生意気盛りの中学生に対する躰教育であった。

それ以後の高校(旧制)大学では学生は一人前の紳士として取り扱われ、こんな躰教育は施されなかった。ところが後日、海軍に入るに及んで初級士官の心得として右の五訓を更に微に入り細をうがって躰教育を施された。私は中学時代の五訓がこんな所で復活しようとはと独り苦笑した。しかし考えてみれば、これは人間関係の入口である。キチンとした身なり、テキパキとした動作、挨拶を大切にす

る、言葉を正しく使う、それがないと良好な人間関係は望むべくもない。私は今も常にそれを心掛け、小松中学校は私に何よりの贈物をしてくれたと感謝している。

ところで三十年の歴史をもつ金沢支部の会員数は約一、三五〇名、出身別は中学16・4% 県女19・6% 市女2・7% 高校61・3%。世話役の各級幹事54名、総会は隔年毎に、幹事会は年一回以上開催している。(中学31回)

◆90周年記念事業の一環として同窓会よりお贈りいただいたパソコン、写真で御覧いただきたいの通り生徒達が大変喜んで活用しております。図書館の新聞閲覧室をコンピュータ室に転用しました。

◆8月27日28日全国高P連大会(日本武道館)で、本校PTAがこれまでの活動を評価されて文部大臣表彰を受賞。全国11校の中に入りました。

◆今年度の主な進学状況は次の通りです。国立で合格者数が増加したのは、富山76、神戸9、筑波8、京都7でした。他に金沢80、信州14、新潟9、大阪5、東北、名古屋各4、北海道3、東京、東工大各2。私立関東は早稲田17、慶応7、法政22、明治、日本各20、中央13。私立関西は立命館39、同志社27、関西19。私大への志望が増えています。

◆部活の主な記録。囲碁、将棋共に県大会に優勝、これは珍らしい記録です。共に全国大会に出場、将棋は団体戦ベ

学校だより

スト8に進出。合唱部も全国総文山梨大会に、野々市明倫と共に出場しました。ポートは男女共北信越で優勝全国大会で女子はインターハイ・ナックルフォアで2位、男子は同種目準決勝でした。カヌーも福岡国体に入賞、全国カヌーレーシング大会にも数チーム出場活躍しました。

◆本校教諭橋本竜司さん(高校35回卒業社会担当)もポートで活躍。福岡国体でナックルフォア2位、中日本レガッタ3位、中部選手権大会3位、朝日レガッタは準決止りでした。今年の石川国体で天皇杯獲得のため少しでもお役に立ちたいと抱負を語ってくれました。

◆61年野球部甲子園初出場の際、先輩諸氏の浄財によって雨天練習場が建てられ、62年3月ハインドボールコート跡に竣工。以来生徒達が部活授業に活用しております。



(コンピュータ室)

講演

日本文化・二十一世紀への展望

共立女子大学教授 北村 豊

私は皆さんと同じように小松で育ち、この学校を卒業、高校、大学と進み色々なことをしてきましたが、現在は「現代美術」の研究をしています。

大学を卒業して金沢美大の先生になり、ギリシアに始まりイタリア・ルネサンスを経て、ドイツ・ゴシックからフランスのロココ調に至るヨーロッパの美術を勉強しました。

西洋美術を勉強するにはヨーロッパに行かねばと思ひ、非常に苦労して一戦後の渡欧の難しい時でまだ二十代だったヨーロッパに行きました。

一般人は飛行機に乗れない時代で、日本郵船の貨物船で行きました。東大ドイツ文学の手塚富雄先生と御一緒に誘われて途中下船、エジプトに立ち寄りました。ヨーロッパ美術に憧れる私には、エジプトは気乗りしなかったが、

先生に勧められてカイロの美術館、ピラミッド、スフィンクス、国立美術館へ一緒に行ききました。

ここで私の人生の一大転機が生じました。国立美術館に

入り、天井の高い大きな部屋に、非常に大きなエジプトの彫刻が沢山並んでいるのを一目見た時、雷に打たれたように動けなくなりました。美しいとか立派だとかいう言葉では言い表わせないものすごい感動でした。私にはエジプト美術の知識はあまりなかったが、人間存在の根源にある奥深いもの原始的な力が、私の心を強く捉えたのです。それまでの考え方が一変してしまい、この時の感激、感動が現在まで続いているのです。

目的の地パリに着き翌日早速ルーブル博物館に行きました。一番尊敬していたイタリア・ルネサンスやギリシア彫刻、モナリザやミロのビーナスを自分の眼で見ました。ところが、あれ程日本にいた時憧れていたのに余り感激しなかったのです。

その後ルーブルでレオナルド・ダ・ヴィンチの絵を三ヶ月かけて模写したり、パリの国立美術学校に入ったり展覽会を見たり美術の勉強を続けたが、ギリシアやイタリアの

美術はエジプトの彫刻のように私の心を打ちませんでした。さてピカソは二十世紀美術を切り拓いた天才です。彼の作品や名は後世に残ります。このピカソが一番感激した芸術は何か。ギリシアやイタリア・ルネサンスではなく、実にアフリカの黒人彫刻でした。黒人の原始的な力に感激し、



天守台

太田雅久(高校2回)

破れマンントの歌は石垣の風に吹っ飛んで四十年童顔の君はいまも天守台の上肩組み合った姿のままで拳を振り上げいまも流離の果ての歌を声高らかに歌っていることかバクダンボッチャンサンマよおムおムおム

いと考え、自国ハンガリーの民謡を研究、民衆の原始的人間存在の根源にある音に対する感覚を発掘。民謡の中から一つの原理を抽出し従来のヨーロッパの音楽理論をかみ合わせて独自の作曲の方法を発見したといえます。

つまり現代の芸術家達はヨーロッパの文化から脱出し、原始的野性的な力を旧文明から靈感をえて、自分達の芸術をうち樹てたのです。これはヨーロッパの現代文明が疲れきっているということとです。ではヨーロッパ文明とは何か。一口で言うときリスト教文化です。日本人は神道佛教など多神教を信じているが、キリスト教は一神教、神はキリスト一人です。ここからヨーロッパの芸術が生まれました「真理は一つ」という考えから自然科学が発達したのです。多神教の国々に科学は発達しませんでした。レオナルド・ダ・ヴィンチの有名な「最後の晩餐」はすべての空間がキリストの額一点に集中する遠近画法で描かれているこれも一神教のキリスト教の思想から生れたものです。現代物理学でハイゼンベル

ヒが不確定性原理を発見した。これは「光」は波動とも粒子とも物質とも、どのように考えてもよいという考えで、「真理は一つ」と信じ、学問の体系や世界観人生観を築いてきたヨーロッパの人々に危機的状況をもたらしたのでした。科学の発達を基にした文明が自然破壊など矛盾を露呈しキリスト教的一元論、真理は一つという文化が、このように不確定性原理によって否定されたり、ヨーロッパの芸術家達が原始的野性的な力に救いを求めるようになったことから分るように、一九八〇年代からヨーロッパ文明は終りに近づいてきたと私は観ています。

これからは多元的な世界、いくつもの価値観が並立する世界、真理はいくつもある世界になってくるでしょう。この時こそ多神教を信じてきた我々東洋人はやり易くなる。二十一世紀に活躍する皆さん、西洋文明、自然科学をどのように批判し、それを乗り越えてゆくか、これが皆さんの責務です。(中学39回)

平成二年十月八日に行われた小松高校創立記念講演会要旨。

會員の随想

中学校歌

加賀野の果ての白山よ
波打ち騒ぐ 北の海
眼になれそめて幾年ぞ
若き心を育くめる
学の庭ぞ いとほしき
ラ小松ラ小松ラララー
ラララララ小松

逍遙

亀田 作雄

十一月下旬の暖かい小春日和だ。私は八幡の実家を訪れ、いつものように散歩に出た。谷田を通り、三百米ほど行くと、小さい牧場に突き当ると、更に石ころのごろごろした道を二百米ほどで八幡の堤(つみ)に着いた。八幡の用水池だ。土堤の上って、堤を見渡す。昔のままに大の字に広がっている。満々とたたえた水面には深緑の松影と深紅の紅葉が影を落としている。堤の岸の落葉を踏みしめて歩く。途端に池の面にばあっと白い浪が舞い上がり、ぎゅっとけたたましい音があたりの静寂を破る。何十羽、否何百羽という鴨の大群である。

梯川の土堤のあたりを散歩する。川にはいつも鴨の群が浮き沈みして遊んでいた。それが十一月十五日の狩猟解禁日を境として姿を消してしまった。今日この堤に泳いでいた鴨はあの梯川の鴨が移って来たのではないだろうか、私は大池につづく小池、更に一番奥の古池まで来て歩を返した。百千の鴨を集めて山の池 冬青 (中学22回)

邂逅と開眼

宮川 恒

人生において心眼を開かせてくれるような人に巡り会うことによって、その人の原点が確立されるという。森茂喜君は中学時代、旧家で素封家の一人息子として、五年制の中学に六年間もいて悠々と野球や当時最先端のスキーなどを楽しんで卒業した。早稲田では、すばらしいラガーとして勇名を馳せた。軍隊に入ってから、当時の風潮どおり要領よくやっていたようだが、中学時代の配属将校で当時七連隊におられた坂野少佐に、ある日懇々と人間味

溢れる教訓を受けたようである。根が純情な森君のことゆえ、心機一転、以後すばらしい古武士的軍人精神の持ち主となり、支那事変、太平洋戦争を通して幾度か死線を越え、中隊長、大隊長として部下の心服するようなすばらしい軍人となったのである。砲弾の破片を体内に残しながら町長として、また幾多の公職について空前絶後の足跡を残したのである。 (中学26回)

短歌

吉田三郎(中学42回)

成染清君(元ソウル高校)の小祥追念祭(一周忌)の祭主になって成君の家族等と共に龍仁墓地にて行ふ。

青き道袍のわれはも祭主饗けくれよ酒と嗜みて祭文を読む君の塚まかると見放く背の山は色しらしらの月をあげたり

母校の思い出

五十嵐一雄

私の在学中は、毎日の教練や時々の野外演習など、軍国主義の教育に終始したことが

天守台の東側に、小さな射撃場がありました。級友の一人が、左眼で狙いを定めたため、弾が隣の的に当たってしまったという笑えぬこともありました。毎年、金沢から派遣される陸軍大佐殿の査閲がありました。晩秋の冷たい気温の下で夏服の五年生がタンポの中に飛び込んで、大佐殿の御意にかなったこともありました。今、時に、大事にしている当時の校門の写真をとりに出して、昔をしのぶこともありませう。校庭には、あの頃をしのぶものとしては、記念館と天守台だけになったのは、さみしいことです。 (中学35回)

哀歎の譜・青春

升井 友治

生きていてこそ、希望も夢もロマンもあるはずなのに、男の人生、若き命を祖国に捧げて、靖国に祀られることが、至上の光栄であり、生を享けた男の本懐であった。

第二次世界大戦、夢多き青春や、肉親との決別が、これこそそれの美学と讃えられた若き日々、思えば心痛み、切

生きてる日の男の友情は別れの日に終わったとしても、心に刻まれた君達の姿は、私達の人生観として生命への尊敬さを教えている。戦後がどんなに風化されても、忘れてはならない平和への志向と、生命の価値観とを大切にしたい。母校の散策路「青雲の小径」は哀歎の譜を奏でる青春探訪の回想路でもある。 (中学40回)

俳句

新田祐久(高校4回)

古九谷の黄にはひたつ 淑気かな
初鴉安宅の松を越えゆけり 初景色
湯女通るこほろぎ橋の

県女校歌

越路のくもを 抜きて立ち
雪嶺々の 白山の
清きは己が 容そと
打仰ぎつつ 女子の
道の高嶺を わけよかし

素晴らしい小松同窓会

南 愛子
小松中学五十年の流れは、
県女、市女が合流し、小松高
校となって三十年……。

「八十年の大河は、今も変ら
ず天守台下を流れ続けていま
す。……」とは今は亡き前会
長森茂喜氏の創立八十周年記
念回想録中の名文です。
平成元年十月、九十年の大
河の流れを迎え、仲井信雄会
長、橋本斉祐校長を先頭にし
て私達同級生は、無事に、立
派に百年の彼方へと送り続け
る大任を果たすことが出来ま
した。

天守台下の「青雲の小径」
は、優しく若人を招き、天守
台上の老松は、雄々しく若人
の心を捉える。

海々と素晴らしい音を立て
て大河は、百年へと流れ続け
ています。
櫻は咲き、散り、又咲き散

る。

素晴らしい音を立てて大河は、
流れゆくが、
百年へ明るい希望と、夢を
乗せて。
(県女15回)

京都郊外から
上田三洋子

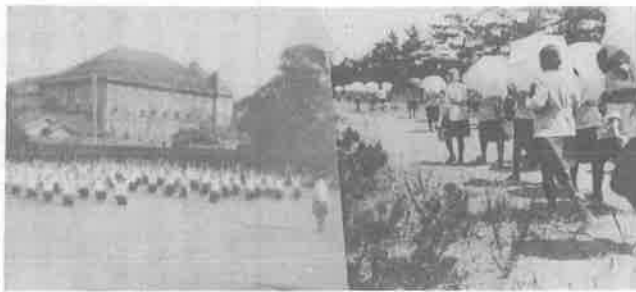
月曜午前II社交ダンス練習。
火曜午後II地域の会。水曜夜
II社交ダンス練習。木曜夜II
社交ダンス練習。金、土、日
II創作活動、および短歌会へ
の詠草作り。その他沢山の会
合こなし。以上が私の大まか
な日程である。

未亡人となった私の家へ長
男家族が入居してきたので、
庭をつぶして私の住まいを造
った。そして精神的にも経済
的にも独立をした。家族のた
めに日を送り自分を失うこと
は、日程からも耐えられない
ことだった。それはかつての
家族にあった甘えと優しさ
憎しみとは随分と異なる世界
だが、それを承知でこの形態
をとり、いまようやく落ちつ
いた。

故里の級友と話す時、彼女
達はたいがい家族の中にあっ
て今まで通りのあり方の中に
いる。そして戦を経て来た

私達の世代は、新旧の激しい
価値観の差でのサンドイッチ
なのだ。

昔、尼さんが私を觀て「故
郷より遠い所に住む方がこの
人の為にはよろしい」と言っ
たそう。小松の空気に合わ
ぬと思つたらしい。
(県女32回)



県女の運動会(建物は自治館) 遠足

市女校歌

蒼空高く 聳え立つ
れいろの峰 白山の
けがれぬ姿 仰ぎてぞ
我等にきよき 誓あり

入学当時のこと

徳田美代子

同窓会報が発刊になりました、誠に結構なことと思いま
す。これからは、いろいろ情
報もわかりますし、皆様方
のお便りもどしどしせて頂い
て、次号が待ち遠しくなりそ
うです。

私は、当時の実科女学校の
一回生です。筒袖の着物に袴
をつけ、下駄ばきで大きな風
呂敷に教科書や裁縫用具を包
み学校に通いました。冬は高
下駄に雪が沢山つき、電柱で
こんこん落しながら通学して
勉強しました。良妻賢母にな
るようと、裁縫、料理、作
法を主に、修身、国語、算数、
商業等、それぞれの先生に熱
心に習いました。

私は、昭和二十九年に、主
人の理解のもとにみどり会の
会長になりました。畑久治校
長の時でした。錚々たる方々
と共に、微力ながらみどり会
員の協力のもとに過してきま
した。校長先生も次々と変ら
れ、いつしか私も年を重ねま
した。これからは若い同窓生
の時代です。皆様、頑張つて
会の話をよろしくお願

します。(市女1回)

戦中派プラス戦後派

小森 高子

私達の年代を、こう言った
ことがあります。仰せのま
にハイハイと従う戦中、ガラ
リと変って、何でも口に出し
て述べる戦後。私達が通った
境目は、激しい変化をみせて
くれました。驚いたり、とま
どったり、初めて生徒会を作
り、選挙で会長、役員を選び、
会則を作りクラブ活動も初め
ました。何日か、何回か話し
合つてそれらしくしたのです
おもしろくもあり、楽しくも
ありました。勉強は？。新し
い民主主義を理解しようとし
たことが、勉強だったように
思います。

私は、この変化に会えた時
を、その中であつて生長した
心を、一生の宝としています。
戦中を知っているから、戦
後の有難さが分るのです。拘
束の辛さを知っているから、
自由の尊さを嬉しく思います。
21世紀を目前にして、真の自
由がどこまで得られるか、誰
の上にもあるようにと祈りま
す。
(市女20回)

高校校歌

朝夕仰ぐ白山や
とはに変わらぬふるさとに
若きいのちをはぐくみて
正義をおのが友となし
いざや励まん学びの道を
ああわれらが母校
小松高校

共学元年

勝木 満子

男女が別学から共学へと移行した昭和二十三年私たちは新制高校一年生。今も級会ではあの頃の雰囲気を感じ、時の経つのを忘れ、声の哽れるまで話しこむのも、戦後民主主義の風を体いっばいに吸いこみ伸び伸びと共学の日々を送ったたまものだと思います。当時の私は終鈴と同時にコートへ直行、日の暮れるまで球を追って軟庭一筋、福岡国体には一年生で出場しました。三年の秋、バレー、バスケット、テニス、ソフトボールとホーム対抗試合には引っぱり出され、進学模擬テスト中でも、廊下で待つ級友から「試合が始まる、早く出てきて」と催促されたこともありました。もとより誰からも勉強を

強要されず、偏りもなし。大学進学は頭を下げて頼み、自分で進路を決めました。あつという間に卒業四十年。自由闊達だったあの青春の日々が共学なくして考えられないことを痛感する私は別学から共学への転換は今振り返れば世界第二次大戦後の新しい日本の近代化のさきがけであったと実感する昨今です。

高麗津高校

佐々木 守

小松とは、もと「高麗津」だったと知ったのは、高校を卒業してずいぶん後のことである。「高麗」とは古代朝鮮三国の「高句麗」を指し「津」とは港のことだから、「高麗津」はその高句麗との交流が盛んだった土地であることを意味する。言うまでもなくその時代の朝鮮半島は日本列島から見れば文化の大先進地であり、そこでの親近性を語る「高麗津」は、列島文化の前進基地であることを示している。このことを知った時、そうか、ほくは「高麗津高校」出身なのだ、なぜか誇らしく感じたことを覚えている。

(高校3回)

今年第46回国民体育大会が石川県で開催されるが、その秋季大会開会式の集団演技全体構想を頼まれ、冒頭に小松市の人々による、姉妹都市ブラジル・スザノと安宅の関の故事という小松市ゆかりの内容を置いたのは、あるいはほくが「高麗津高校」出身で、それを誇らしく思っていることと証左かもしれない。

川柳

上田千路 高校6回

ぼんぼんぼん母の命と
風船と
一枚のスープ皿にも
妻が住む
やどかりの夫婦が買った
夏ぶとん

小松城に思う

出倉 宏

母校を想う時、まず小松城天主閣跡が青春の風景として思い出される。小松城は、那谷寺や梯の天満宮を建立した加賀藩三代目藩主・前田利常の隠居城として知られている。かつては、芦が生い茂った湿地帯のまん

(高校7回)

中に、梯川の河口をふさげば忽ちにして浮き城となる要害であった。しかし、利常は「葭島亭」と命名し、城とも御殿とも呼ばなかった。百万石を警戒する幕府への気遣いが伺える。井原西鶴の「日本永代蔵」に、江戸にいる利常は鼻毛を伸ばしっぱなしで愚かをよそおった、とある。「これは、加賀、能登、越中を守る鼻毛じゃ」と家臣に言ったという。隠居するや、小松に藺草をもち込み、九谷焼、加賀羽二重などの産業を奨励し、小松の基盤を作った名君であったことを、忘れてはならない。今、思い出の中に歴史が甦る。

北村良胤先生のこと

北室 正枝

「あなた、どこの高校？」
「私、小松です」「あらあ、私も小松高校出身なんよ」
バスの中は混み合っていた。二人は並んで吊皮に手をかけた。その人はつい先まで片町の料理学校で、同じ教室隣のグループにいた人だった。さわやかな美しいお嬢さんである。小松高校出身と聞いた

(高校12回)

とたん、私は家族が親戚に出会ったような親近感を覚え、おしゃべりは急にはずんだ。「芸術は何を選んだの？」「書道よ」「私もよ。あの頃の書道の先生三木のり平にそっくりやったね」「あ、それ私の父です」「えっ？」
へこの美人が、あの三木のり平氏と親子がしまったの？
なごの会話が見つからず、次のバス停で下車したくなった。「顔真卿の字は、こうだ」と太い筆をなぎなたのように教壇で振り廻された北村良胤先生はもういらっしやらない。そして、現在私が書と篆刻の世界に身をおいていることなど、当時は先生も私も想像もしていなかったことである。その上、かつての料理学校の成果を披露する伴侶の出現をいまだに待っていることも。



青雲の小径

(高校18回)

生徒会直接民主制起源

馬場先陽一

「仰げば尊し」を歌ってから何と20年。「原稿を書け」と言われて時の重さをずっしりと感じてしまった。とはいえ今日を閉じれば時間流の底を潜って当時の記憶がまざまざと蘇ってくる。テストの結果に一喜一憂したこと。昼休みのソフト、ベレー。あの先生、この先生。早弁。学生運動。ノそのあれは受験も間近に迫った頃、生徒大会での一場面「我々は職員会の言いなりの生徒会など認めない」「職員会から独立した自治会を作ろう」当時流したアジテーションである。(不毛の紛争に巻き込まれるのは嫌だな)と思っていた時N氏唐突に「それではいつそのこと直接民主制にして如何でしょう」これは面白い。大衆心理も働いて2日に渡る大議論の末、ついに可決されてしまった。目的だった「学生運動の悪影響回避」「生徒会への無関心に活をいれる」を達成して。後輩諸君こんな経緯を理解した上でそろそろ効率のいい代議制に戻しては如何?

ニクマツ万歳

山本 義之

「あんたらの学年はきつと何かやると思っていた」。小松高校第29回卒業生同窓会(通称・ニクマツ会)を組織したとき、恩師の方々はこう言っただけで設立を祝ってくれました。「高校時代ほど深く思い出が残った時はない」「親睦を続け母校の発展に寄与していきたい」など同窓生数人で飲みながら話したのはい九八四年秋のこと。今では全国、いや海外にも散らばる会員二百十人を束ねる「マザー・シツプ」として運営しています。主な活動は、発足以来毎年一回の総会・懇親会の開催と年二回の会報の発行。ただ言えるのは、決して回顧主義だけの同窓会ではない、という共通認識です。利害関係のない「同窓生」同士が、今の自分を見つめ将来を語り合う場、これがニクマツ会の意義である、と自負しています。会員それぞれがニクマツ会を活用し、育てていく。やがてそれが貴重な「財産」となることを信じて……。

本部だよ

◆小松同窓会創立九十周年に際し、全国の会員から寄せられた寄付金の総額は六千三百三十万円、これに名簿販売による収入などを加えて九十周年記念事業関係の収入総額は八千十万円に達しました。一方支出は、校地内桜並木(青雲の小径)改修に千三百万円、母校へのパソコン設備寄贈に八百六十万円、名簿発行に千三百七十万円、記念館(旧木造校舎)整備に八百七十万円、記念式典懇親会等に六百十万円、小松同窓会基金として一千万円など計七千九十万円、残額は同窓会一般会計に繰り入れられました。◆校庭の桜並木は、岩谷浩三氏(高7回)の設計で、老樹に添えて新たに若木百三十本が植えられ、天守台に至る樹下の散策路も整備されて、前金沢大学学長本陣良平氏(中36回)により「青雲の小径」と命名されました。小径入口には本陣氏の漢詩「青雲小径」の詩碑も建立され、生徒諸君が学業やスポーツの合間に散策を楽しんでいます。桜花爛漫の春には、多くの市民を集める小

第二号の原稿募集

松名所のひとつになることでしょう。◆コンピュータ時代に生きる後輩のために、創立九十周年にあたり仲井会長の強い熱意から生まれた小松高校コンピュータ室の盛況は「学校だよ」でお知らせした通りです。有為の人材が多教育してほしいものです。◆記念館(旧木造校舎)も創立九十周年を機に整備され、階下は展示室として、同窓会や学校の歴史を物語る諸資料が展示されております。◆平成二年度小松同窓会総会並びに懇親会は、七月十二日ホテルサンルート小松を会場に開催されました。午後六時半開会事務報告、決算報告、九十周年記念事業決算報告、会計監査報告、予算案審議などがあり、会員の承認を得て総会終了、引き続き懇親会に入りました。当日の出席者百六十名中最長老の松崎茂夫氏(中24回)の音頭で乾盃、その後江口介一氏(高17回)の司会で、会は和やかに進められ最後に、中学、県女、市女、高校の校歌を声高らかに斉唱し、塚林有明氏(中26回)の音頭で小松同窓会の発展を祝し万歳を三唱、お楽しみしました。

◎会員皆さまの随想や意見等(六〇〇字程度)
◎詩・短歌・俳句・川柳等(10行詩・2首・3句以内)
◎メロ 5月末日
発行 夏の定例総会日
送先 同窓会本部編集室

◆ 会報に名前を付けて下さい!!
・制限 漢字なら3字以内
・メロ 8月末日ハガキで本
部まで。採用の分に薄謝
を呈します。

- 会報編集委員会
編集長 宮崎 榮(中学33)
委員 浜野 光代(県女35)
北村 節子(市女20)
中田 武太(高校8)
野田 洋子(高校12)
佐々木 均(高校18)
山本 義之(高校29)
矢原珠美子(事務局)

あ と が き
寄稿された先輩や後輩の友情のおかげで、新年総会に間に合せて発刊できたのを感謝。同窓会とは忘年の集い(年令の差を忘れる交わり)と覚えた。ささやかな会報でも百周年へ向けての前進のよすがとなることを念じつ。(M)